

7

YEARS  
OF THE  
SUPER BATTLE  
of MINI  
CHAMPIONSHIP

SUPER BATTLE  
of MINI®

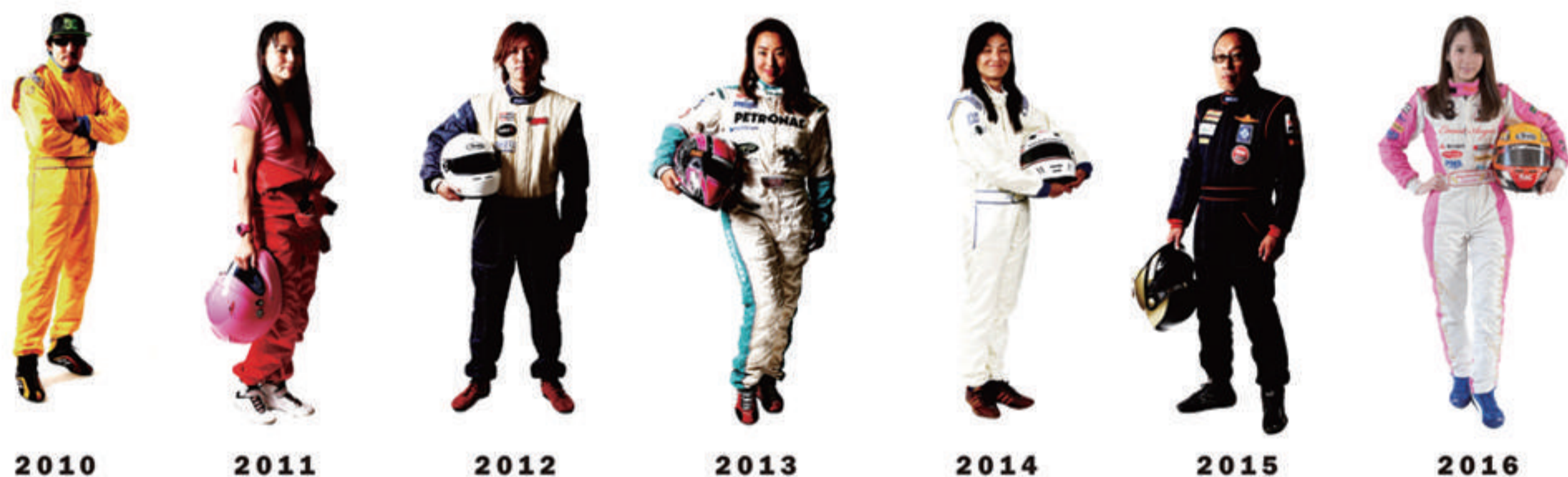
スーパーバトル・オブ・ミニ  
7年の軌跡

MOTO CLASS SILHOUETTE CLASS SUPER SPRINT &  
SPRINT CLASS

INJECTION SPRINT & LEGAL CLASS  
Classic Narrow Cup BATTLE of MINI 1000

# 7 YEARS OF THE SUPER BATTLE of MINI CHAMPIONSHIP

## スーパーバトル・オブ・ミニ 7年の軌跡



2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016

director= 清水 制 Tadashi Shimizu  
三和トレーディング <http://www.sanwa-trd.co.jp/>

**MOTO CLASS SILHOUETTE CLASS SUPER SPRINT & SPRINT CLASS**  
**INJECTION SPRINT & LEGAL CLASS**  
**Classic Narrow Cup BATTLE of MINI 1000**



# SUPER BATTLE of MINI®

## PROLOGUE

そのモータースポーツは、ミニだからこそ実現できた



子供の頃、日が暮れるのも忘れて無心で遊んでいたように、大人が真剣に無邪気に挑める遊び。そんな数少ない遊びの一つにモータースポーツがあります。メンテナンスやチューニング、セッティング、ベース配分に至る乗りこなし方

すべてを通じて戦術的な考えが必要であり、マシン整備の技術力やドライビングテクニックだけではなく、奥深い楽しみがクルマ好きを夢中にさせるのです。

しかしながら、一般的な四輪モータースポーツは参戦に至るまでに多額な費用を必要とし、型遅れになったマシンでは戦闘力の低下は否めないなど、趣味として楽しむにはハードルが高すぎます。ワンメイクレースであっても、個人で参戦するドライバーがレースを続けるには難しすぎる環境と言わねばならないのが、日本のモータースポーツに置かれた環境でした。

それでも、そんな日本でも個人レベルで存分に楽しめるレースカテゴリーを確立させる方法はあったのです。それはモータースポーツの本場、英国でも今だ人気のカテゴリー、クラシックミニによるワンメイクレースです。

誰もが憧れのレーシングドライバーになれる。自らのドライビングテクニックを切磋琢磨できると共に、レース前から戦術的な取り組みをしていくことで、より深くミニというクルマを知ることができる。一度マシンを作り上げれば長く楽しめるのは、昨今のプラスチックで作ら

れた使い捨てのクルマたちとは違う、'60年代のクルマならではの魅力でしょう。

しかもボディサイズも構造もシンプルでミニマムだから、モディファイがダイレクトに走りへと反映される。ピュアなレーシングマシンにすら匹敵する特性さえも手に入れられる。まさにミニだからこそ個人でもできるレベルの高いモータースポーツ。レースの登竜門ではなく、いつまでも楽しめる大人の深いクルマ趣味として、スーパーバトルオブミニは設立されたのでした。

何よりも安全性を最優先し、スポーツとして楽しむために競技としてのルール作り重点を置き、毎回のように見直すべき点がないか、考え続けられてきました。それはサーキットでのバトルを安全に楽しめるだけでなく、公正で発展性の高いカテゴリーであることが求められているからです。だからこそミニ専門店のチューニングスキル、セッティングノウハウを見せつけ、かつ高めていくことができるレースとして、年々盛り上がりを見せています。

まずはスーパーバトルオブミニというレースカテゴリーの生まれた背景、概要はご理解いただけただけではないだろうか。ここからは、7年間の足跡を追うと共に、ミニというマシンのもつ魅力と可能性、それに魅せられたドライバーたちの戦いぶりをお伝えしよう。



サーキットという限られた空間で、マシンと己の速さの限界に挑むモータースポーツ。マシンの速さを引き出す、戦術でライバルの前に出る、仲間とのレースに向けた準備すら楽しい。そんな非日常を大人の趣味として愉しむ、英国では多くの人を楽しんでいる自動車趣味を日本でも楽しんで欲しい…。そんな願いから生まれたイベント「スーパーバトル・オブ・ミニ」。

2016年で7周年を迎えた、このミニのワンメイクレースの全貌をこれからご紹介する。

# 2010-13

## ミニ最速の座を賭けて、スーパーバトル始まる

スーパーバトル・オブ・ミニは、立ち上がり早々のアットホームなサーキットイベントから、たちまちチューニングレベルもレーシングバトルも過熱していく。それはドライバーを熱中させる要素がミニというクルマに凝縮されていたからに違いない。その秘めた可能性を引き出すべく、ドライバーもチューナーも持てる力を注いでいくことにより、トップカテゴリーは戦乱の時代へと突入していくことになったのである。

### 2010 初開催はアットホーム、しかしここから目覚ましいレベルアップ

かつてレースブームだった80年代後半、ワンメイクレースの人気カテゴリーの一つだったクラシックミニのレースを復活させたのは、2010年6月のことだ。SCCJ(スポーツカークラブオブジャパン)主催イベントの1カテゴリーという準備期間を経て、ミニのスポーツ走行会とワンメイクレースのイベント「スーパーバトルオブミニ」(以下SBOM)が初めて開催された。当初はスタッフ5人だけ、参加台数もレース30台、走行会30台の合計60台で、決勝レースはAB2クラスで争われた。

「あの時は春なのに夏日になってしまうほど暑くて、路面温度も非常に高くなってしまった記憶があります。そう語るのは関東ミニクラブの重鎮、椎名史樹さんだ。『まだ速さのレベルもそれほど高くなって、アットホームな雰囲気にも包まれたイベントでしたね。』

サーキット走行には不慣れなエンタラントも少なくなかったため、オーバーヒートを起こしたミニや、レース序盤でマシントラブルからリタイアが目立ったのも、振り返って見ればそれは、新たなサーキットユーザーを呼び寄せたことの証でもあったのだ。

第2戦は8月下旬、猛暑日となったにも拘らず、オーバーヒートを起こすミニはほとんど無くなった。

8月の第2戦までに走行会を挟んでマシンのセッティング、初戦でのリタイアからの反省もあって改善を進めることができたことでオーバーヒート対策を施すなど、マシンの信頼性を1レースで格段に向上させてきたのだ。

12月には最終戦が行われ、予選を含めた最速ラップは開幕戦の9秒8から6秒9にまで上昇した。このタイムをマークした山岸選手だけではない、ほとんどのドライバーが初戦よりもベストタイムを縮めてレースのレベルアップを果たしたのだ。

初代シリーズチャンピオンには山岸将一選手が輝いた。それはシリーズ3戦すべてを優勝し、インタークラブのミニカップでも2戦すべてを制した完全優勝であった。こうしてシリーズ3戦は無事に終了し、この年から年間表彰式の会場として品川天王洲アイルのクリスタルヨットクラブのクルーズ客船「レディクリスタル」を借り切って船上パーティを実施。モータースポーツから連想される油臭いムードとは一転して、年間表彰式は優雅で華

やかな雰囲気にも包まれたものに。そう、これこそが大人が本気になって楽しめるミニのワンメイクレース」という、自動車趣味の一つの理想形を具現化したのである。

### 2011 サーキットエンジェルス発足、吉永選手の圧倒的な強さが光った



翌2011年、主催者である三和レーシングは女性レーシングドライバーユニット「サーキットエンジェルス」を結成した。これはミニオーナーが気軽にレースデビューできることを実践すべく、レースクイーンからドライバーへのステップアップするという試みである。このレースカテゴリーで行なったのである。

レースを通じてドライビングテクニックやマナーの向上を図り、周囲のドライバーへ波及させるという狙いは見事に当たり、エンタラントも増えてドライバーの幅が広がっていく。

東日本大震災の影響で中止になってしまった第2戦の代わりに7月にはスポーツ走行会だけが開催されたが、ここに後に注目すべき存在となるドライバーが初参加する。田中美香(旧姓佐藤)選手だ。「この年、ミニを買うまでは国産スポーティ車のMTに乗っていたんですが、サーキットは憧れの存在のままでした。ところが知り合いに誘われてミニのイベントを見て、ミニに乗り換えたいと。走りたいイベントがあって、手ごろな価格と準備で参加できるので、申し込んでサーキットデビューしたんです」。

初めての走行会、彼女のタイムは一つ上の選手より12秒も遅い最下位だった。そこから毎回、スポーツ走行会を楽しみながらドライビングテクニックを磨き、翌2012年からはインジェクションクラスに参戦。今ではインジェクション・リアルクラスでシリーズ3位に入るほどの速さと安定感を身に付けたのだ。

さて、この年の戦いぶりに目を戻すと、シリーズ4戦中3勝、2位1回というダントツの成績で吉永誠選手がシリーズチャンピオンを獲得する。吉永選手は現在も5秒台を叩き出すトップドライバーであり、安定した速さで表彰台の一角を占める、MOTOクラスの名パイプレイヤー的存在である。

### 2012 インジェクションクラス誕生、金蔵選手強しの2012年

2012年シーズンからはインジェクションクラスを新設、より手軽にミニオーナーがワンメイクレースを楽しめる環境作りが充実する。DELPHI、FERODO、CHAMPIONといったサプライヤーからスポンサーで、副賞なども増えるなどエンタラントへの還元ぶりはますます高まった。

レースカレンダーやリザルトなどを掲載するHPにはオンボードカメラのムービーをアップするようになった。これによりエンタラントは上位ドライバーの戦いぶり、走り方など参考になる情報が多々あり、参考になるドライバーは少なくない。

レース中の実況解説を始めたのも、この年から。マシンのサウンドが響くだけでなく、レース中のパドックやスタンドでの観戦を盛り上げる場内放送は、その時走っているドライバー以外をより楽しませるものとなった。

この年、注目すべきドライバーの一人が石川純選手である。「以前から筑波のレースに出たいと思っていました。2012年から参戦することができたんですが、初めて参加した第3戦は2位、最終戦は金蔵選手のスピンのあつて優勝することができました。黄色いボディにワイドなオーバーフェンダーが特徴のKADツインカムを駆る石川選手は、この後スーパーバトルを掻き回す存在となるのだ。

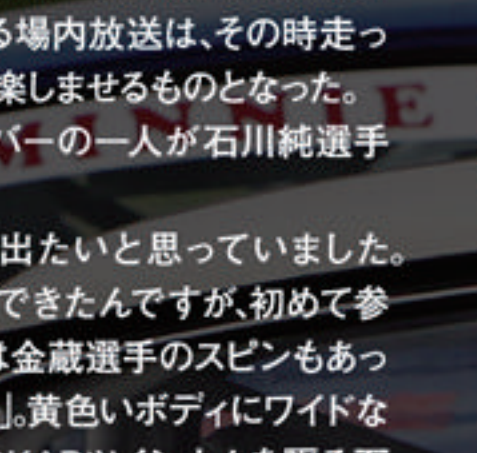
この年、サーキットエンジェルズのエース的存在である八講めぐみ選手が第2戦終了後に産休でしばらくレースを離れることになり、代わってホンダワークスのGPLレーサーとして2輪で輝かしい戦績をもつ宇川徹選手がステアリングを握ることに。しかしアルファロメオのレースで活躍した宇川選手も、SBOMではチューニングレベルの高いミニに囲まれ、苦戦することに。

シリーズ全4戦へと拡大したSBOMは、金蔵二選手の4戦中3勝という圧倒的な成績でシーズンを終えた。最終戦こそ1周目のスピンで4位に終わったものの、速さの安定感は絶対的だった。

しかし、その一方で関彰太選手の成長も見逃せない存在となってきた。1293ccというノーマル同然の排気量のまま、コーナーリングのキレで果敢に挑む若き二世ドライバーは、安定感を保ったまま、着実に速さを高めていったのだ。

### 2013 誰が勝つか分からない。熾烈さを極めた波乱の展開

スーパーバトル4年目となる2013年は、波乱のシーズンとなった。シルエットクラスが新設され、最高峰クラスとしてマシンのチューニングと完成度、さらにはドライビングテクニックも最高レベルを誇るドライバーたちの戦いが繰り広げられることになる。



「正直言って、最初の頃のスーパーバトルはチョロいという印象でしたね。だから関西へも遠征していましたが、このあたりからは、そんな悠長なことは言ってもらえ

### 2014 山岸選手が圧倒的な速さで王座奪還バトルオブミニ1000も新たな戦いの舞台に



女性ドライバーが増えてきたとは言え、テクニックもマナーも手本となる彼女の存在は大きく、パドックは賑やかさが増した印象があった。

JAF公認レギュレーションの1300Tクラスも新設され、よりシビアなレギュレーションで戦いたいエンタラントの要望にも応えられるようになった。またメディカルチェックの取り入れにより、ドライバーの健康状態もより把握して、レースでの安全性はより高まった。

BATTLE of MINI1000クラスが新設されたことも大きなトピックだった。1000cc以下で過給器の装着不可という条件以外は、ほとんど改造無制限というレギュレーションは、また新たな速さを追求するマシンたちでバトルを繰り広げるカテゴリーを生んだ。八講めぐみ選手のピュアを998レーサーに対して、Mikiクーバーをベースに7ポートヘッドを搭載した谷口拓未選手のMRRC29のように大胆なチューニングが施されたマシンが挑むなど、従来の1000Tとは異なる、刺激溢れるバトルが展開されたのだ。

トップカテゴリーのシルエットクラスは、山岸将一選手が3勝を上げチャンピオンを獲得。パワーユニットをKADツインカムに換装し、フルフロントカウルとしたNew Vegi7は、豪快な加速力を見せつけた。スリックタイヤを履いて予選では3秒を切るくらいというほどの速さで、コース上を駆け回る。第2戦をメカニカルトラブルでリタイアした以外は、悪天候ものともしない、圧倒的な強さだった。

MINNIE・ショウタの関彰太選手も着実に速さを高めていたが、絶対的なエンジンパワー不足は否めなかった。「自分がレースを始めた2006年頃から、父とトップグ

サーキットでのレーシングスーツから一転して、ドレスシーな装いで楽しむクルーズ船での年間表彰式パーティは、すぐにチケットが完売になるほど人気だった。

くなりました。金蔵選手は当時を思い出して、こう語る。第3戦が台風の影響による大雨で中止となってしまったことも波乱を呼んだ。

開幕戦は金蔵選手が優勝すれば、第2戦は山岸選手、そして第3戦が中止となって、最終戦は石川選手の手に。

「最終戦はポールポジションからスタートできたんですが、スタートでミスってしまって出遅れてしまったんです。でも関彰太選手のクラブマンはエンジンパワーが少ないのは分かっていたから、最終ラップのバックストレートで抜けると思って狙いを定めました。でも、彼のマシンは本当に壊れなくて、ミスも少なかったですね」と石川選手。その証言通り、関彰太選手が1度も優勝するこ

とはなかったものの安定した速さで、シリーズチャンピオンを獲得。それだけこのシーズンはバトルが激しく、混とんとしていたことを意味していた。事実、金蔵、石川の両選手を含めたシリーズ3位までの3選手はポイント差が10ポイント以内、表彰台に上がった回数もそれぞれ2回とほぼ拮抗していたのである。

それ故、各ドライバーのここからの速さを研ぎ澄ませる行為が、その年のチャンピオン獲得に大きく影響を与えていく。5ポートOHVのまま排気量アップでトルクを太らせる者、ツインカムヘッドで高回転域のパワーを絞り出す者、コーナリングスピードを高めていく者…。それぞれの思惑に天候などの不確定要素が絡み合い、レースのドラマが紡ぎ出されていったのである。

# 2014-15

## スーパーバトル戦国時代、いよいよ極まる

前年までの誰が勝ってもおかしくない状態から、お互いに速さを研ぎ澄ませることで力のバランスが変わっていく。圧倒的なパワーを誇るKADツインカムの台頭。そして最高峰はMOTOクラスへの昇格で更なる速さの高みへと向かう。



ループで争っていたドライバーが未だにトップを走っているんですから、山岸選手は凄いですよね。」と手放して称賛する。その言葉には近い将来、それを凌駕する速さを自分が身に付けるという自信が隠れているようだった。

スーパーキャンティック金蔵選手の2014年は、不運が続いた。「開幕戦はマシントラブルでリタイア、第2戦は関西へ遠征に行っていたので欠場したんですが、第3戦はスピンして後退、4戦はマシンが不調で揮いませんでした」。

モディファイを繰り返したことによる歪み。丁度この時期、そうした蓄積した疲労のようなものがスーパーキャンティックに現れていたのかもしれない。

### 2015 いよいよ石川選手が本領発揮、シリーズを席巻し、王座獲得へ

2015年、SBOMは、カテゴリーズを一新した。従来、最も改造範囲が広いトップカテゴリーだったシルエットクラスの呼称をMOTOクラスとし、Aクラスでも上位エンタラントをシルエットクラスへと昇格、Aクラスはスーパープリントクラス、Bクラスをスプリントクラスと位置づけたのだ。これによって俄然、面白さを増したのはシルエットクラスであった。タイム分けではなく、明確なカテゴリーズによりマシンのチューニングの方向性の違い、ドライバーのキャラクターによる多彩なマシンの個性が入り乱れ、バトルを繰り広げることになる。

MOTOクラスではYellow KAD Miniの石川純選手が3勝を上げ、チャンピオンを獲得する。これも前年の山岸選手同様、獲るべくして獲った執念の王座であった。「2014年は4月に中部地方のレースに出た時に、クランクシャフトが折れてしまったんです。インベリアルクラブ大阪を通じてKADにオーダーしたら、特別な仕様を作ってくれという何だか凄いな話になっちゃって。仕事に余裕がある時にしか作れないらしくて、かなり待たされることになってしまいました」。

こうして石川選手の2014年シーズンは終わり、1品モノのスペシャルクランクが届いたのは結局、2015年に入ったことだった。「そこからエンジンを組んでもらっても開幕戦には間に

合わなくて、第2戦からの参戦になると思っていたら、レースの1週間前になってトランスミッションが壊れてしまいました。急遽、部品を手配して組み直してもらい、1日でナラシを終えてレースに向かいました」。

名古屋在住の石川選手は、10歳からレーシングカートで鍛えられたドライビングセンスと勝負カンの鋭さで「金蔵選手は、前に出してしまうと抜くのが難しい厄介なドライバーなので、スタートで前に出て逃げ切る作戦でした」。それで第2戦、32Fesと2連勝。ところが第3戦、スタート直後の1コーナでエンジンプロー。衝撃的なリタイアを喫してしまうのだった。「あれはエンジンではなく、トランスミッションケースが割れてしまったんです。最終戦までは何とか直して、優勝することでチャンピオンになりました」。

2015年は第2戦と3戦の間で、富士スピードウェイにおいて32Fesが開催されたため、特別ルールとしてそのレースのリザルトもポイントに組み入れられた。そこで勝利したのは大きかったが、この時の走りがトランスミッションケースへのクラックを招いたのか、今となっては知る由もない。

関彰太選手は、エンジン製作に手間取り、シーズン前半を欠場してしまったことが、ポイント獲得を阻んだ。「1、2戦はエンジンが出来上がらなくて参戦できませんでしたし、第3戦はメカニカルトラブルで予選も満足に走れませんでした。でも最終戦は狙い通りに走れたので、次に繋げられたと思います」。

新しく組まれたエンジンは、一気に排気量を1460ccへと拡大、第2ヘアピンからの立ち上がり加速でもう歯がゆい思いをすることはない。石川選手のKADツインカムに肉薄する速さを見つけた最終戦が、翌シーズンの速さを予感させていたのだ。



SUPER BATTLE of MINI 初の A2 ボスターを 2 種類作成。CIRCUIT ANGELS No.1 八講めぐみ選手の他、SBOM で活躍しているクラシック・ミニ使いのスター選手が集合。



## スーパーバトルを戦い抜いた二人の直接対決

チャンピオンを獲ったドライバーも勝ち続けるのは難しい。何シーズンも戦い抜いていくことの難さを乗り越えたドライバーがMOTOクラスにも残った。5ポート、Sタイヤの紳士協定を守りつつ、圧倒的な速さを魅せて戦うMOTOクラスの二人のドライバーから目が離せない。

### 2016そして昨シーズン、関彰太選手が全戦優勝。しかしその戦いには様々なドラマが隠れていた。

「チャンピオンを獲れたことで一段落しましたし、ちょっと2015年はお金を使いすぎってしまったので、ドライバーとしては家族の手前もあって、2016年はレースをお休みすることにしました」と石川選手。

また一人、強力なライバルが欠場したことで、最高峰MOTOクラスのバトルはレベルダウンしてしまうかと思えた。ところが、いざ開幕してみると、金蔵選手と関彰太選手の一騎打ちという、これまでにない激しいバトルが繰り広げられたのだ。

第1戦は、ほぼ前年のままのマシンで関選手がポールトゥウィン。そのままは歯が立たないと判断した金蔵選手は第2戦までにエンジンをチューニング。排気量を1460ccへと拡大してきた。「ミニジャックへの遠征は、もう止めにしました。それくらい本気で戦わないとスーパーバトルでも勝てなくなってきました。本当に競うのが楽しくなりました。」

MOTOクラスの出走が自分一人だけだったとしても、そのプライドを見せてくれるように他車を引き離した圧倒的な差でチェッカーを受け続けた鉄人、金蔵選手。その勝負に対する執念は、本気度が上がるほどに高まっていく。

対して関選手は、加速性に余裕が出たことから、フロントに大型のエアダムを追加して更なるコーナリングスピードの上昇へと進む。そして迎えた第2戦、ポールポジションを獲得したのは金蔵選手。決勝のフォーメーションラップから、すでに駆け引きは始まっていた。「金蔵選手が先頭をものすごくゆっくり走るんです。1速でもノッキングしそうなくらい低速で。狙いはボクのクラブマンのタイヤを暖めさせないこと。この時、レース後半でタレないようにミディアムコンパウンドのSタイヤを

試したんですが、予選も今一つタイムが伸びずにポールを金蔵さんに獲られていたんです。先頭でフォーメーションのペースを決めるのはポールの特権ですからね。」

速く、安定感もあって、戦術も巧みな金蔵選手の術中に陥ったかのように見えた。ところがこれで闘争心のスイッチが入った関選手は、スタートから3周連続で最終コーナー入り口から1コーナー出口までサイドバイサイドという驚愕のバトルを展開する。その後もテールトゥノーズで周回を重ね、最終ラップの最終コーナーでも同様にアウトから仕掛け、完全に並んで入ってきた。

クリッピングポイントを通過しようとする時、それは起きた。金蔵選手のマシン、スーパーキャンティックが突然安定感を失い、スピンモードに。樹脂製の電動ウォーターポンプが割れて冷却水が噴き出し、タイヤのグリップを失ったのだ。見事に立て直すもスロウダウンで、吉永選手に抜かれ3位でゴール。

見ていて最高に興奮したレースでした。と金蔵選手に伝えたところ、返ってきたのは「走ってる方が最高だったよ」という満足げな言葉。これぞモータースポーツの醍醐味と言わんばかりの表情だった。

関選手は、あのレースを振り返ってこう語る。「金蔵選手のトラブルがなかったら、完全優勝は無かったですね。やはり、勝ち続けるには実力だけではなく、運も味方に付ける必要があるということか。」

### 空気を味方に付けた関選手のクラブマンが驚異のコーナリングスピードを魅せる

それまでの拮抗したムードの空気が、第3戦で一気に変った。関彰太選手がまた一つ、速さのステージを上げてきたのだ。彼のクラブマンがフロントの巨大なスポイラー&リップに加えて、ルーフエンドにワイドなGTウイングを備えてきた。「GTウイングだけで1秒、ラップタイムが縮まりました」とMINNIE関代表も驚きを隠さない。ちょっと信じられないほどの進化のスピードに鳥肌が立つ。

5ポートとSタイヤの組み合わせで4秒台半ばを叩き出し、予選で圧倒的な速さを見せた関選手に対し、挑戦者となった金蔵選手が決勝で見せた走りもまた驚異的なものだった。

最終コーナーでは後輪がインリフトするだけでなく、フロントも外へ外へと逃げようとしている。高い安定感を保ったまま駆け抜ける関選手のクラブマンに対して、金蔵選手のスーパーキャンティックは限界を超えた走りへと到達しているのは、見ていて明らかだった。決勝中のファステストラップを奪うほど、限界を超えた走り続けた金蔵選手。それでも関選手に迫ることはでき

なかった。最終戦でも、そんな立場は変わらなかった。路面温度が低く、1周目にスピンやクラッシュが多発する難しいコンディション。トップカテゴリーであるMOTO/シルエットクラスでも、そんな危ういシーンは見られた。

1周目のダンロップコーナーで、関選手が派手にテールスライドしながらも抜けていくと、続く金蔵選手は完全にスピンモードに陥り、真横に滑りながらダンロップブリッジの向こうに消えていく。だが最悪のクラッシュを想像させた次の瞬間、鮮やかにコースへと復帰してきたのだ。「いやーヤバかった。オートバイで使われるシケインのエリアで立て直しました。」

何という反応ぶり、そしてドライビングテクニックの鮮やかなことか。そうしている間に集団の最後尾にまで順位を落としてしまったが、そこから金蔵選手のパッシングショーが始まった。周回ごとに1台、また1台とシルエットクラスを抜き去り、8周のレースで総合3位、唯一5秒前半という驚異的なラップタイムをマークして走り切ったのだ。

8秒前でフィニッシュした関選手には余裕のレースとなった。けれども金蔵選手の鬼神の追い上げを見れば、スーパーキャンティックの更なる熟成が進めば、2017年は分からないよ。そう尋ねると、関選手はこう答えた。「まだまだ詰められるところがあります。今のマシンを煮詰めれば3秒台が見えてきました。」

何と、5ポートOHVとSタイヤの組み合わせでも3秒台を狙っていると言うのだ。この男は、2017シーズンも驚異のドライビングを見せてくれるであろう。



# Rinas Exercise

## Lesson.01

バーベルで上腕筋を鍛えましょ♪  
重いものを持ち上げると鍛えられるのは上腕二頭筋。ドライビングには上腕三頭筋を鍛えるのも大事。こんな風には肘を曲げ伸ばしすれば鍛えられますよ。



## Lesson.02

腰や背中のストレッチは日課です  
マシンに乗り込む時、何か動作する時に身体を捻ることって多いですね。腰回りは筋力アップと柔軟性の向上でトラブルを防ぎましょう。レース前にギクッと腰なんて、最悪ですね。



## Lesson.03

股関節は柔らかいですか？  
ストレッチはいろいろなポーズで行なって、身体全体の柔軟性を高めましょう。硬い部分も繰り返すことで徐々に柔軟性を取り戻します。自分で曲げて、ちょっと痛い状態を保持すること。無理は禁物です。



## Lesson.04

体幹は大事ですよ～  
最近、何かと話題の体幹。インナーマッスルは鍛えにくい部分ですが、呼吸や身体を支える大事な筋肉。例えば、この姿勢を続けるだけで、かなり鍛えられます。



## Lesson.05

腹筋を忘れちゃいけません  
上半身を支えるのは背筋と腹筋。背筋は強いけど、腹筋が弱くなると負担増で腰痛の原因に。それに何より、引き締まった腹筋でスタイルアップ。カッコいいレーサーを目指しましょ♪



## Lesson.06

プッシュアップ、つまり腕立て伏せです  
自分の身体を自由に、腕を鍛える腕立て伏せ。どこでもできるし、掌の位置を変えることで主に鍛えられる筋肉も変わってきます。胸筋が分厚くなれば、レーシングスーツもさらにカッコ良く着こなせますよ。



## Profile

### いろいろな選手

レースクイーン、モデル、そしてレーサーと大活躍のりな選手。2016年は国内ラリー競技にも参戦しながら、SBoMにも出場し、バトルオブミニ1000では開幕戦でポールトゥウィン、最終戦のスーパーサブリントクラスでも優勝！ 2017年も果敢な走りですBoMを盛り上げてくれるのだ。



## レーサーのみなさんルーティンが大切です

スーパーバトル・オブ・ミニをより楽しむには、レース当日だけでなく、日頃から準備しておくことも大事です。例えば身体のコンディション。いろいろな選手といっしょに身体を鍛えましょ♪

### いろいろなさんの日常



### 買い物しながらトレーニング

ミネラルウォーターなど重いものを買って、腕を上げながら運ぶ。エレベーターを使わず階段で上り下りすることもトレーニングだと思ってやってみて。



### お酒は断ってます！

元々飲める人、しかもかなり強いにも拘わらず、日頃からお酒を飲まないようにしているスティックな一面も。「お酒飲んじゃうと、翌朝は身体がダルくなるやうで断ってます。」

## アマチュアレーサーだって、トレーニングのルーティンが大切なんです！

レーシングドライバーは、マシンのメンテナンスだけでなく身体のメンテナンスだって大事。プロのレーシングドライバーたちはもちろんトレーニングを重ねてレースに挑んでいます。趣味で楽しむサンデーレーサーも、よりレースを楽しむためには、身体を鍛えることが必要なんです。レースに参加したい、運転が上手になりたいという「心」と、タイムアップを果たすテクニック「技」、そして安心してレースに挑むための体力と「心技体」が揃ってこそ、スーパーバトルもより楽しくなりますよ。走行会やレースで終盤まで集中力が続かない！なんて悩みも、実は体力不足が原因なことも。スーパーバトルにも昨シーズン最終戦から耐久レースが導入されたことだし、ここはひとつ、今シーズンから少しずつ身体を鍛えてみませんか？

ポイントは、ドライビングに必要な筋力と柔軟性、そして心肺能力を高めること。ストレッチは毎日続けていくと、確

実に身体の柔軟性が高まっていきます。フルハーネスのシートベルトを締める時、身体を捻ろうとしたら背中の筋肉が「つった～」なんて、カッコ悪いハブニングも防ぐことができますよ。ただ「よし、毎日続けるぞ！」と思っても、つい3日坊主になりがちですね。何かと忙しいお休みの日にならなくて、いつの間にか止まってしまうことに。それを防ぐには、お休みしてしまっただけじゃダメで、トレーニングを行なう、という決まりごとを作るのがオススメです。それと夕飯前に筋トレ、お風呂上がりの生活リズムに組み込むのも習慣になりトレーニングはルーティンが大切なんです。りな選手のように、日常生活にもトレーニングの要素を盛り込むのもいいですよ！



所属事務所へ渡された活動量計を付けた、いろいろな選手。サマになってますが、実はあんまりトレーニングしてないとか、今年は頑張りますよー。



# 2010-2016 RESULTS

## SANWA drivers champion ship 2010

MINI CUP(INTER CUP+SUPER BATTLE of MINI)			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	山岸将一	MINI 1293	新東京テクノ 121
2.	浜野光一	ROVER MINI	フェイス・ワン 90
3.	米山純	MINI 1.3i	STANMORE 76
SUPER BATTLE of MINI A class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	関 英明	ROVER MINI	GARAGE PROUD 42
2.	吉永 誠	MINNIE 吉永	MINNIE BRITISH CARS 37
3.	渋谷昇一	ROVER MINI	G-CLIMB 35
SUPER BATTLE of MINI B class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	竹内 淳	1300キャブクーバー	Connoisseur 42
2.	田中芳幸	Mini 1.3i	STANMORE 25
3.	深澤弘樹	John Cooper 1000	GARAGE KAMIYA 24
3.	小幡勝士	ROVER MINI	STANMORE 24
3.	川本益央	PROUD Mini	GARAGE PROUD 24

## SANWA drivers champion ship 2011

MINI CUP(INTER CUP+SUPER BATTLE of MINI)			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	成澤 潤	PHIR MINI	フェイス・ワン 96
2.	吉永 誠	MINNIE 吉永	MINNIE BRITISH CARS 95
3.	米山純	MINI 1.3i	STANMORE 74
SUPER BATTLE of MINI A class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	成澤 潤	PHIR MINI	フェイス・ワン 96
2.	米山純	MINI 1.3i	STANMORE 74
3.	八講 めぐみ	Circuit Angels	新東京テクノ 62
SUPER BATTLE of MINI B class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	本間宗久	ESブリ通勤号-1	GM 59
2.	荒井徹治	MINNIE てつじ	MINNIE BRITISH CARS 57
3.	田中芳幸	Mini1.3i	STANMORE 51

## SUPER BATTLE of MINI CHAMPIONSHIP 2012

A class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	金蔵省二	Super CANTIC spring	Garage CANTIC 90
2.	関 彰太	MINNIE - ショウタ	MINNIE BRITISH CARS 66
3.	野沢賢司	SPR ミニ	Stockman PLUS 59
B class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	神戸正博	ピアスミニ 1号 1300	Garage PIERCE 70
2.	根津貴之	Donington Works	DONINGTON 56
3.	廣瀬ユウキ	Circuit Angels	新東京テクノ 52
INJ class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	本間宗久	INJ - エスブリ通勤号	GM 75
2.	鈴木 宏	INJ - モーリスファミリー-G1	GM 51
2.	追分和雄	INJ - いきいき富山ミニ	富山オリエンタル自動車 51
3.	Kimu Kimu	INJ - REV with ミニマガ	REV 50
3.	佐藤	INJ - 3232	Fujix Auto 50
F class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	吉村賢人	F - yosiyosi 号	BROS GARAGE 70
2.	佐藤岳人	F - オースチンクーバーS	privater 57
3.	岩田直久	F - ミニ 1300	Cooper House Tiny 54

## SUPER BATTLE of MINI CHAMPIONSHIP 2013

SILHOUETTE class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	関 彰太	MINNIE - ショウタ	MINNIE BRITISH CARS 60
2.	金蔵省二	Super CANTIC Sprint	Garage CANTIC 52
3.	石川 純	Yellow KAD Mini	G-CLIMB 50
SUPER BATTLE of MINI A class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	野沢賢司	SPR ミニ	Stockman PLUS 72
2.	長池 純	インベリアルクラフト長池号	インベリアルクラフト神奈川 52
3.	吉永 誠	MINNIE - 吉永	MINNIE BRITISH CARS 43
SUPER BATTLE of MINI B class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	根津貴之	ドントンレーシング	DONINGTON 48
2.	榎谷明彦	anakani - X	ミニセンターオタザワ 45
3.	加世田 健	アーニークライマックス1号	GM 43
INJ A class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	本間宗久	INJ - エスブリ通勤号	GM 56
2.	佐藤博之	INJ - Fujix Club F!	FujixAuto 55
3.	宮園典成	INJ - CSAミニ1.3i宮園号	CAR SALE AOKI 55
INJ B class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	鈴木 宏	INJ - モーリスファミリー-G2	GM 62
2.	川本益央	INJ - PROUD	GARAGE PROUD 54
3.	田中美香	INJ - チャミ	STANMORE 41
Classic Narrow Cup			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	吉村賢人	F-yosiyosi号	BROS GARAGE 80
2.	佐藤岳人	F-オースチンクーバーS	privater 65
3.	加世田 健	F-シンディ号	GM 37

## SUPER BATTLE of MINI CHAMPIONSHIP 2014

SILHOUETTE class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	山岸将一	New vegi 7	新東京テクノ 85
2.	関 彰太	MINNIE - ショウタ	MINNIE BRITISH CARS 62
3.	石川 純	Yellow KAD Mini	G-CLIMB 20
SUPER BATTLE of MINI A class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	野沢賢司	SPR ミニ	Stockman PLUS 84
2.	中村恭兵	Mini Kids Racing	MINI KIDS 72
3.	吉村賢人	yosiyosi 号	BROS GARAGE 69
SUPER BATTLE of MINI B class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	石塚藤太郎	Rover Mini	I.F.G Cars 80
2.	青木 俊	アオミニ	BROS GARAGE 62
3.	福田裕康	SPRミニ	Stockman PLUS 61
INJ A class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	本間宗久	INJ-ESブリ通勤号	GM 95
2.	湯浅健人	INJ-ぶっちょ	RITLIFE 92
3.	深澤和弘	INJ-GKRT 1300N	GARAGE KAMIYA 47
INJ B class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	大野 茂	INJ - GKRT 1300N	GARAGE KAMIYA 82
2.	鈴木 宏	INJ-モーリスファミリー-G2	GM 58
3.	川本益央	INJ-信濃鶴	GARAGE PROUD 49
Classic Narrow Cup			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	中部雅弘	インベリアルクラフト#991	インベリアルクラフト神奈川 95
2.	佐藤岳人	F-オースチンクーバーS	privater 89
3.	清水隆浩	F-エアポート 1号	GM 85

# SUPER BATTLE OF MINI CHAMPIONSHIP

BATTLE of MINI 1000			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	谷口拓未	1000-オースチンMK1 998	Stock Vintage 95
2.	山崎英剛	1000-山P ミニ	RITLIFE 93
3.	藤田英樹	1000-静岡刈り外れ ミニ1000	静岡刈り外れ自動車 71

## SUPER BATTLE of MINI CHAMPIONSHIP 2015

MOTO class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	石川 純	Yellow KAD Mini	G-CLIMB 80
2.	金蔵省二	Super CANTIC Sprint	Garage CANTIC 55
3.	山岸将一	New Vegi 7	新東京テクノ 22
SILHOUETTE class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	神谷純也	GKRT 1300T	GARAGE KAMIYA 107
2.	吉村賢人	yosi yosi 号	BROS GARAGE 106
3.	野沢賢司	SPRミニ	Stockman PLUS 76
SUPER SPRINT class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	長池 純	インベリアルクラフト長池号	インベリアルクラフト神奈川 102
2.	栗山 登喜男	SCR	Garage CANTIC 71
3.	岡田英明	No.17	スプリント・ガレージ 62
SPRINT class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	中部雅弘	インベリアルクラフト#991	インベリアルクラフト神奈川 82
2.	梅田剛行	スプリントガレージ	スプリントガレージ 70
3.	田沢佑貴	SCR SUシングルキャブ君	Garage CANTIC 67
1300T class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	原 互助	PIERCE MINI 3号	Garage PIERCE 52
2.	佐藤貴士	ACミニ	アクセル・カーズ 45
3.	神戸正博	PIERCE MINI 1号	Garage PIERCE 37
INJECTION SPRINT class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	湯浅健人	ぶっちょ	RITLIFE 118
2.	堀江泰誌	SPRミニ	Stockman PLUS 78
3.	荒井徹治	ROVER MINI	MINNIE BRITISH CARS 74
INJECTION LEGAL class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	大野 茂	1300N オレンジ	GARAGE KAMIYA 99
2.	志村京子	INJ-35th アニバーサリー	BROS GARAGE 87
3.	武田朝子	RITLIFE-あさごさん	RITLIFE 82
Classic Narrow Cup class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	山岡秀之	PIERCE MINI 5号	Garage PIERCE 87
2.	新井康彦	ROVER MINI	RISING 50
3.	加世田 健	シンディ号	GM 49
BATTLE of MINI 1000			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	谷口拓未	オースチンミニMK1/ハイドロサス	Stock Vintage 125
2.	中村慎吾	ミニ1000	I.F.G Cars 73
3.	坂東 智	ルイス・カールB	フェイス・ワン 67

## SUPER BATTLE of MINI CHAMPIONSHIP 2016

MOTO class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	関 彰太	MINNIE-ショウタ	MINNIE BRITISH CARS 107
2.	金蔵省二	Super CANTIC Sprint	Garage CANTIC 81
3.	吉永 誠	MINNIE-吉永	MINNIE BRITISH CARS 79
SILHOUETTE class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	小林澄雄	ハヤシタイヤレーシングミニ	ハヤシタイヤ 87
2.	野沢賢司	SPRミニ	Stockman PLUS 76
3.	吉村賢人	yosi yosi 号	BROS GARAGE 71

SUPER SPRINT class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	岡田英明	No.17	スプリント・ガレージ 77
2.	田中 喜久男	TTR 55 ERAターボ	TURTLE TRADING 70
3.	長池 純	インベリアルクラフト長池号	インベリアルクラフト神奈川 63
SPRINT class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	福田裕康	SPRミニ	Stockman PLUS 72
2.	森 博文	キャメル ハゲマル2号	CAMEL AUTO 65
3.	田沢佑貴	SCR SUシングルキャブ君	Garage CANTIC 63
1300T class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	神戸正博	PIERCE MINI 1号	Garage PIERCE 47
2.	池田雄一	PIERCE MINI No.2	Garage PIERCE 28
3.	佐藤貴士	ACミニ	アクセル・カーズ 26
INJECTION SPRINT class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	高橋直幸	MRRC 0070	Stock Vintage 97
2.	湯浅健人	ぶっちょ	RITLIFE 83
3.	堀江泰誌	SPRミニ	Stockman PLUS 72
INJECTION LEGAL class			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	堀江 秀之介	堀Pミニ	RITLIFE 118
2.	前田慎一	STANMORE Mpi	STANMORE 71
3.	田中美香	@チャミ@STANMORE@68	STANMORE 68
Classic Narrow Cup			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	山岡秀之	PIERCE MINI 5号	Garage PIERCE 70
2.	伊藤 創	クラブマンミニ	スプリントガレージ 50
3.	岩田直久	KKI-1300T	Cooper House Tiny 45
BATTLE of MINI 1000			
POS.	DRIVER	CAR	FACTORY SHOP POINT
1.	清川 亮	ジェイルートミニ1000	J-LUTH 80
2.	芦川 純	ブリティッシュキッズ94号車	KENT GARAGE 79
3.	宮尾弘之	TTR 37	TURTLE TRADING 75

## SUPER BATTLE of MINI CHAMPIONSHIP 2016 TUNING AWARD

MOTO class		POINT
1.	MINNIE BRITISH CARS	134
SILHOUETTE class		POINT
1.	ハヤシタイヤ	60
SUPER SPRINT class		POINT
1.	TURTLE TRADING	142
SPRINT class		POINT
1.	Stock Vintage	42
1.	RITLIFE	42
1300T class		POINT
1.	Garage PIERCE	75
INJECTION SPRINT class		POINT
1.	Stock Vintage	71
INJECTION LEGAL class		POINT
1.	RITLIFE	80
Classic Narrow Cup		POINT
1.	Garage PIERCE	52
BATTLE of MINI 1000		POINT
1.	J-LUTH	54



2012 SIL CHAMPION Shoji Kanekura



トップカテゴリーで首位争いを続けるSBoMの鉄人。ミニのワンメイクレースでは90年代から活躍し、その安定した速さは誰もが認めるところ。自らマシンをメンテナンスし、速さを追求し続ける

姿勢は、クラブマンレーサーの模範的存在と言える。ライバルの台頭も、自らの闘争心を掻き立てる刺激に変え近年、ますます熱いドライビングを魅せてくれている。

2013 SIL / 2016 MOTO CHAMPION Shota Seki



ミニ専門店MINNIE BRITISH CARSの関代表の息子として生まれ、2006年よりミニカップでレース参戦。仕事では钣金塗装店で修業して、現在はミニの钣金塗装を担当。壊れなくて乗りやすい

マシンを作り、コーナリングでタイムを削ぎ落とす。ブルーのクラブマンは年を追うごとに進化し、ついに最速マシンとなって昨年、シリーズ全線の優勝でチャンピオンを獲得。今年もチャンピオン候補ナンバーワンだ。

2014 SIL CHAMPION Masakazu Yamagishi



ミニのワンメイクレースにおいて90年代より活躍しているベテランミニ使いの一人。チャンピオンを2回獲得していることから、その速さと安定感の高さ

は実証済み。愛車「Veji7」の由来は、青果卸業を営んでいるから。現在は2015年に損傷したマシンを修復すると共に、新たなモディファイを施している最中で、復活の日に向けて着々と備えている。

2015 MOTO CHAMPION Jun Ishikawa



10歳よりレーシングカートを始め、19歳から中部地区でミニの耐久レースに参戦。SBoMには2012年より参戦。第3戦のエンジンブローから最終戦での復帰と優勝で2015年のチャンピオン獲

得を決めたのも記憶に新しい。カートで磨いたドライビングテクニックと、ミニの常識にとらわれないマシン作りで、2017年は再び台風の目となるか。

# SUPER BATTLE of MINI × STUDIO COAST

華やかなパーティ。それはクルマと音楽とファッションの融合

スーパーバトル・オブ・ミニのシーズンを締めくくるのは、豪華な表彰式&パーティ。  
この時ばかりはエントラントもレーシングスーツやツナギから、スーツ、タキシード、ドレスへと変身する。  
華やかな舞台の上で表彰される一方で、今シーズンを振り返っての反省、来シーズンに向けた抱負、  
目標…。尽きない話題に夜は更けていく。

シーズン終了後、パーティクルーズ船のレディクリスタルで行なわれてきた船上表彰式&パーティであるが、2016年は三和トレーディングからほど近い、新木場駅前のSTUDIO COASTに舞台を移して開催された。これは乗車定員のあるレディクリスタルではすぐにチケットが売り切れてしまうこと、クルーズ船の出発時間に間に合わない参加者も来場できるように考えられてのことだった。広いステージでクルマ×音楽×ファッションの更なる融合を果たした表彰式パーティ「東京パーティナイト」と名付けられた。

各クラスの上位3位を表彰する際には、ドライバーごとに大画面に名前とレーシングスーツ姿が映し出され、テーマソングが流れる。まるで総合格闘技の選手入場のようなダイナミックな紹介で登場するのだ。

そして表彰式の合間には、まるでライブハウスのよう

に各バンドやボーカルグループ、アーティストたちがこの表彰式&パーティで知ってファンになり、単独ライブにも行くようになったという人もいほど、クオリティの高いライブが楽しめる。往年のダンスナンバーがかかれば、思わず踊り出すかつてのディスコの常連も。

「最近のSBOMはレベルが高くなりすぎて…」という声も良く聞かすが、それはこのイベントが正常に成長、進化してきた証であるとも言える。インジェクションリーガルクラスやクラシックナロークラスなど決勝の出場枠に余裕のあるクラスもあり、初心者でも気軽に参加できる無料の体験走行やスポーツ走行会も依然として用意されている。そこでタイムアップやサーキット走行に慣れてからレース参戦、なんてアプローチもアリなのだ。

2016年は女性ドライバーが増加しているだけでなく、F4ドライバーの見里乃亜選手も参戦するなどの影響

もあって、レース全体のレベルアップも着実に伸びてきた。2017年はさらにエントラントが増加、ハイレベルなドライバーが集うことで、激しいバトルでレースを湧かせるようになるに違いない。2017年はMOTOクラス、シルエットクラス共に昨年以上のバトルが期待できそうだ。

「ガレージカミヤの神谷純也選手も侮れません。今シーズンはダークホースになりそうです」と、関彰太選手が語るように、伸びしろのあるドライバーやチームの存在も見逃せない。

さあ、筑波サーキットへ。勝負の舞台は整った。さらに今シーズンは2年ぶりの32Fesというスペシャルなステージも待ちかまえている。激しいバトルを制するのは、果たして誰か。

7 YEARS OF THE SUPER BATTLE of MINI CHAMPIONSHIP

## UNIFORM

これまでワークス活動のスタッフに着用が限定されていたユニフォームからイベントスタッフユニフォームとして一新。これまでのブラック×レッドのモータースポーツらしいデザインに対して、新しいユニフォームはPUMAのブルーを基調としたスポーティなウェア。胸元のSBOMロゴと、背中中のSTAFFが鮮やかに浮かび上がる



## TROPNY

これまでのSBOMオリジナルトロフィーはデフォルメされたミニの焼き物を台座に載せてきたが、2017年からはヴィンテージ感あるミルクガラスのマグカップに専用のプリントを施したモノを採用。日常使用やスタッキングしてコレクションするなど、新たな楽しみを提供する。これもSBOMだけのオリジナル品。



## CHAMPAGNE

毎年の表彰式で使われるシャンパンには、こだわりのノンアルコールスパークリングワイン「カプリス」を使用。発売以来10年以上、高級ホテルの直営レストランなどで定番採用されている逸品。記念品としても満足してもらえるクオリティの高い物だ。



## RACE QUEEN

決勝前のスタートボード提示や、表彰式でのプレゼンターなどをするレースクイーンは、2017年もメインは三咲舞花さんと市川由紀さんに決定。レースクイーンやイベントコンパニオン、そしてモデルやタレントとしても活躍する二人がSBOMをより華やかにしてくれる。



## MC

2017年シーズンのSBOMもレース中のMCは久野彰久/山本和正/緒川さくらの3人が担当する。久野のスピード感溢れる実況、山本のクールな解説、そして緒川による癒しのMCが、今年も筑波サーキットを包み込む。



# We Love Mini



# We Love Mini

